

ほうきやま 放亀山古墳の概要

赤穂市東有年と有年檜原にまたがる大鷹山(標高201m)の東側に伸びる丘陵は、「放亀山」と呼ばれています。この丘陵の一番高いところに、放亀山古墳が築かれています。この古墳は直径20m程の円墳と考えられていましたが、平成30(2018)年に行われた発掘調査により、全長38mの前方後円墳であったことが判明しました。

発掘調査で出土した土器や古墳の形から、古墳は今から約1,700年前(古墳時代前期・4世紀初頭)に築かれたものであることがわかりました。また、保存状態が大変良く、調査では古墳の表面に設置された石材(葺石)が全面で見つかっています。

有年地区には約300もの古墳が集中していますが、そのうち前方後円墳は放亀山古墳のみです。また、その年代も古墳時代前期前半と古いもので、有年地区で最初に造られた本格的な古墳といえます。



後円部上段の発掘調査

古墳のデータ

- 墳形：前方後円墳
- 構造：前方部・後円部とも2段築成
- 全長：38m(後円部径23m、前方部長16m)
- 全高：後円部4m、前方部1~3m
- 外表施設：葺石のみ(埴輪無し)
- 埋葬施設：不明(木棺直葬もしくは竪穴式石室)
- 年代：4世紀初頭(古墳時代前期前半)

アクセス



.....: 登山道
登山口から山頂まで
所要時間はおおよそ30分です。



赤穂市教育委員会



くびれ部の発掘調査



後円部側
葺石

前方部側
葺石



前方部の隅角

古墳の上では、当時の葺石の一部が地面に露出しているのを今も見るができます。

おねがい!古墳が崩れますので、石を動かさないでください。



前方部の葺石

見学路→

□ : 調査部分

0 S=1/200 10m

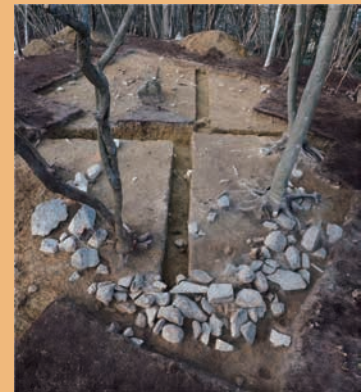
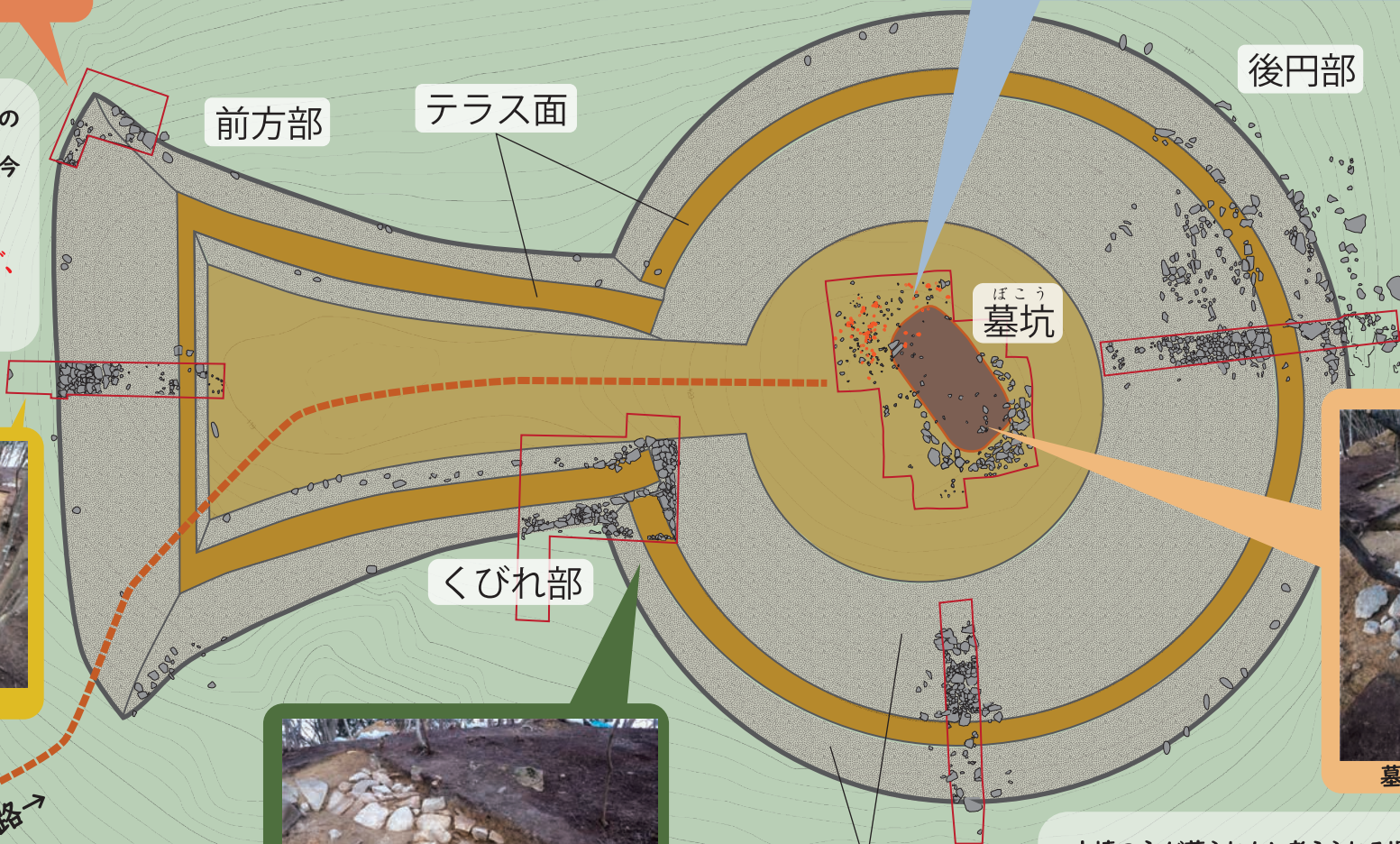
後円部の頂上では、古墳に供えられた土器が多く出土しました。土器は奈良県や大阪府で見られるものと全く同じ形・作り方であったことから、古墳に葬られた人物が、ヤマト政権と密接なつながりを持っていたことがうかがえます。



出土土器の推定復元図 二重口縁壺 高杯 鼓形器台 小型丸底土器 小型器台



土器の出土状況



墓坑の調査のようす



くびれ部の葺石

古墳の主が葬られたと考えられる場所には、長さ 4.4m、幅 2.2mという大きな墓穴（墓坑）が見つかりました。内部は保存のために調査していませんが、棺を直接埋めた木棺直葬、もしくは小さな竖穴式石室が内蔵されているものと考えられます。

ふまいし 葺石